

精神科病棟に勤務する熟練看護師に備わっている能力調査：半構成的インタビューを通して

著者	鈴木 亮, 鈴木 孝三, 櫻井 信人
雑誌名	看護研究交流センター活動報告書
巻	25
ページ	63-66
発行年	2014-04
URL	http://hdl.handle.net/10631/1152

精神科病棟に勤務する熟練看護師に備わっている能力調査 —半構成的インタビューを通して—

鈴木亮¹⁾ 鈴木孝三¹⁾ 櫻井信人²⁾

1)独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター 2)新潟県立看護大学

キーワード：熟練 精神科 看護師

目的

平成 25 年度から厚生労働省は、がんや脳卒中などの「4 大疾病」に精神疾患を追加し、「5 大疾病」とする方針を固めており、近年精神科領域への注目が増している。

研究者らは精神科病棟で日々業務に従事する中で、患者対応やチーム内での調整、社会的長期入院患者の退院支援や病棟内トラブルの場面、多職種との調整など、精神科看護師として多様な場面に遭遇している。このような中で、精神科の熟練看護師と呼ばれる人たちは、どのような対応をしているのか知りたいと思うようになった。

そこで本研究では、精神科病棟における熟練看護師に着目し、精神科看護師に備わっている能力とは何かを明らかにすることを目的とした。今回の取り組みにより、精神科に勤務する看護師に対し、理想的な看護師像をイメージしながら教育的指導を実践できると考えた。

方法

I. 研究デザイン：質的記述的研究

II. 研究対象：A 地域の精神科病棟に勤務する看護師 8 名

III. 期間：平成 25 年 7 月 18 日～平成 26 年 3 月 3 日

IV. データの収集方法

1. 本研究に同意を得られた精神科病棟に勤務する看護師を対象に半構成的インタビューを行った。
2. インタビュー内容はインタビューガイドを用いて、研究対象者が今までに出会ってきた熟練看護師について語ってもらい、熟練看護師が持つ熟練したケアに関する事例を自由に語ってもらった。その後、精神科において最も印象に残っている体験を想起してもらい、その体験について語ってもらった。

V. データの分析方法

インタビューの内容を逐語録に起こし、研究者間でデータを繰り返し読み込み、精神科での熟練看護師や熟練したケアについて書かれている文脈を拾い出し、意味内容に準じてまとめた。

VI. 倫理的な配慮

本研究は独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター倫理審査委員会の承認を得た上で実施した。

結果

I. 対象者の概要

対象者 8 名の概要は表 1 のとおりである。

表 1. 対象者の概要

対象者	年齢	性別	看護師 経験年数	精神科 経験年数	対象者	年齢	性別	看護師 経験年数	精神科 経験年数
A	29 歳	男性	7 年	7 年	E	55 歳	女性	35 年	22 年
B	25 歳	男性	4 年	4 年	F	56 歳	男性	31 年	31 年
C	37 歳	女性	14 年	8 年	G	34 歳	女性	11 年	8 年
D	34 歳	男性	13 年	7 年	H	47 歳	男性	24 年	24 年

II. 精神科病棟に勤務する熟練看護師に備わっている能力

インタビューの結果、精神科病棟に勤務する熟練看護師に備わっている能力として、【知識】、【技術】、【経験】、【患者理解】、【患者対応】、【コミュニケーション】、【リーダーシップ】、【人柄】の 8 つのカテゴリーが抽出された。具体的な内容は表 2 のとおりである。

表 2. 精神科病棟に勤務する熟練看護師に備わっている能力

カテゴリー	サブカテゴリー
知識	<ul style="list-style-type: none"> 精神、身体を総合的にアセスメントができる 精神科の専門的知識があり、社会資源や薬剤について知っている 基礎的な学力があり、根拠をわかってやっている
技術	<ul style="list-style-type: none"> 暴力や行動制限時の技術、疾患に対する技術など精神科の専門的技術ができる 拘束や抑制時にエビデンスに基づき、素早く実施でき説明もできる 精神科で身体的な処置技術ができ身体管理ができる
経験	<ul style="list-style-type: none"> 時間的な長さではなく、行動制限中の看護場面や対人関係調整などの場数を踏んでいる 看護師経験の中でも精神科経験が充分にある 状態悪化した患者の対応を経験があり、リスクを予見して、患者の状態変化を早期に把握できる 他科経験があり、身体管理の場面ではスムーズに動けて指示を出せる
患者理解	<ul style="list-style-type: none"> 社会的入院と呼ばれる長期入院患者の長い経過を把握している 患者の家族背景や予測できない行動など患者のことを全部知っている 患者の生活歴を理解し、退院後の生活を見据えてかかわることができる 患者同士の関係性を考慮し、対人トラブルがないような病床管理ができる
患者対応	<ul style="list-style-type: none"> 興奮状態や落ち着かない患者、操作性のある患者にも動じず、一貫した態度で丁寧な落ち着いた対応ができる 嫌なことを言われても顔に出さず、文句を言わない 些細なところまで良いところを観察し、患者の持っている力を引き出せる 距離や時間をおいたり、人を変えたり、患者に合わせて対応することができる 長い経過を見て、普段の姿を知り、早期に異常に気付いたり、時間を惜しまず関わり、焦らないで経過を見てじっくり向き合うことができる 患者－看護師関係から人と人との関係まで関係性を大切にして、信頼関係を構築できる 患者から信頼が厚い

コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・不穏状態の患者に一息その場で入れられ、怒りを鎮められる距離感や言葉選びができる ・自分の感情の伝え方が穏やかで、叱り方がうまく場を荒らさない ・聞きだし方が上手く、患者の話を受容しながら上手く言葉に出してくれる ・優しさや厳しさ等、態度や雰囲気や相手に合わせて使い分ける ・患者の要求を受け入れるだけでなく、看護師の気持ちを伝える駆け引きができる
リーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・ムードメーカーであり、病棟の雰囲気をよくしてくれる ・他のスタッフへの足りないところのフォローや指導、見えていない視点でのアドバイスが上手く、マニュアル以外のことも面白おかしく教えてくれる ・スタッフに指示ができ、信頼が厚く、他の看護師からモデルとされる ・落ち着きがあり、一緒に働くスタッフへ安心感を与える ・医師に対してハッキリものを言える
人柄	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスマネジメントができ、暴力発生後の自身の対処法が身につけている ・忙しさや苛立ちを見せず、物事を割り切れる、感情的にならない ・患者の看護に対して自身の意見をしっかり持っている ・モチベーションが高く、研修会や研究に参加し、新しいものを取り入れられる ・外科的処置技術等は少ない場合においても、練習し努力している ・仕事以外でいろいろな体験をしていて、社会経験が豊富 ・1つ1つの事例を大事にしている ・物腰が柔らかく、包容力があり、落ち着いている感じがある ・根性がある ・誠意がある

Ⅲ. 精神科病棟に勤務する熟練看護師のイメージ

インタビュー対象者が語った精神科に勤務する熟練看護師のイメージとして、精神科経験は10年以上であり、年齢は30～50歳で自分よりも年上で、同じ年齢や年下は熟練と認めにくいと述べられていた。外見は、男性の場合、少しお腹が出ていて、がっしりした体型。白髪交じりで表情が一定か笑顔の人とイメージする人が多かった。一方、女性の場合、あまりイメージは語られず、精神科病棟で勤務する熟練看護師について性差でみると男性をイメージする人が多かった。

考察

川野ら(2000)は、精神看護は、患者と看護師の対人関係の中でケアを推進していくため、看護師は、患者との良好な関係を発展する治療的な関与ができる力を備えることが重要になると述べている。精神科での治療では患者－看護師関係を基盤にして治療が行われており、今回の結果においても、“患者の家族背景や予測できない行動など患者のことを全部知っている”や、“患者－看護師関係から人と人との関係まで関係性を大切にして、信頼関係を構築できる”等の関係性を構築するために必要な要素が抽出された。精神科看護は、患者－看護師関係にとどまらず、人間－人間の関係まで関係の深さが及ぶ対人援助の色合いが強いため、精神科の熟練看護師はケアの前段階として関係性を重視していた。また、“社会的入院と呼ばれる長期入院患者の長い経過を把握している”や、“自分の感情の伝え方が穏やかで、叱り方がうまく場を荒らさない”といった【患者理解】や【コミュニケーション】に関するカテゴリーは、対象者から多くの語りが得られた。これらは精神科看護の特徴的な部分であ

ると思われ、精神科の熟練看護師はこれらの能力をうまく使いながら看護を実践していた。

今回の結果からは【人柄】というカテゴリーが抽出された。精神科看護においては前述したように関係性を重視しているが、その関係性を構築するために熟練看護師は人柄をうまく利用していた。その人柄は一つに固定されるものではなく、様々な個性があり、“仕事以外でいろいろな体験をしていて、社会経験が豊富”、“根性がある”など自分の個性をいかに発揮できるかが重要であると考えられた。

8つのカテゴリーは相互的に関連があり、1つの能力を備えているだけでは熟練看護師とは言えず、より多くの能力を備えていることが熟練看護師であると言える。ベナー(2005)は、看護師は経験を積むにつれ、未熟な実践的知識と未整理の理論的知識との複合体である臨床知識が高まると述べている。今回の結果で、【経験】というカテゴリーが抽出された。精神科看護師の熟練のために、必要不可欠な要素である。熟練看護師になるために、臨床で経験を重ね知識を深め技術を磨くことが重要であると考えられる。

熟練看護師は新人看護師にとってモデル的な役割を担っており、中堅看護師には良き指導者やサポーターとしての役割もある。そのため、今回の研究で抽出された熟練看護師の能力を精神科の看護師教育の中に取り入れることも有効であると考えられた。

最後に、今回は研究対象者数が限られていたため、全ての能力を明らかにしたとは言えず、対象者を増やしデータを積み重ねていくことが課題である。

結論

- I. 精神科に勤務する熟練看護師に備わっている能力として【知識】、【技術】、【経験】、【患者理解】、【患者対応】、【コミュニケーション】、【リーダーシップ】、【人柄】の8つのカテゴリーが抽出された。
- II. 精神科の熟練看護師は【患者理解】や【コミュニケーション】をうまく使いながら患者とかわかり、さらに【人柄】を使って看護を実践していた。
- III. 今回の研究で抽出された熟練看護師の能力を精神科の看護師教育の中に取り入れることは有効である。

謝辞

本研究にあたり、ご協力を下さいました看護師の皆様に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 川野雅史(2000)編：精神看護学Ⅱ(第5版)，ヌーヴェルヒロカワ，東京。
パトリシア・ベナー(2005)／監訳井部俊子：ベナー看護論 新訳版 初心者から達人へ，医学書院，東京。